

農作物病害虫発生現況情報（6月）りんご編

1 モニリア病

(1) 6月前半の巡回調査では、発生が確認されなかった(図1)。

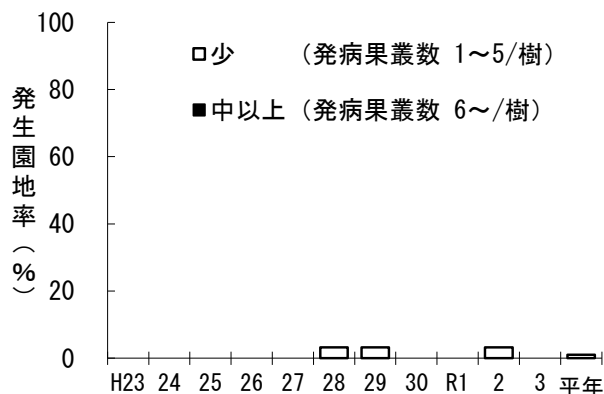


図1 モニリア病の発生園地率の年次推移
(6月前半、実ぐされ及び株ぐされ)

2 斑点落葉病

(1) 基準圃場(北上市成田、スターキングデリシャス、無防除)における初発は例年並の6月第1半旬となり、発病葉率は6月第5半旬まで平年より低く推移した(図2)。

(2) 6月後半の巡回調査では、「ふじ」の発生園地率は16.1%(平年18.7%)で平年並だった(図3)。

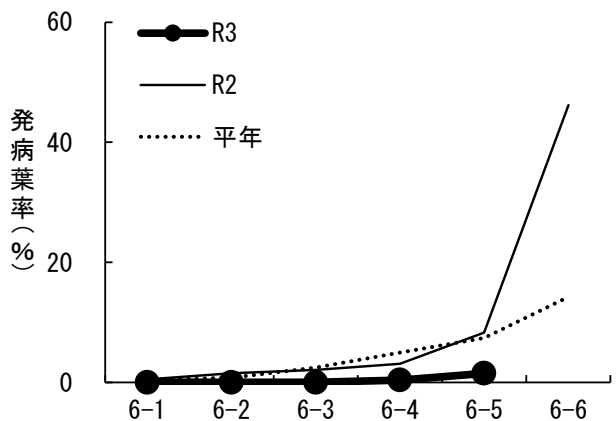


図2 基準圃場における斑点落葉病の発病葉率の推移
(月-半旬、新梢葉)

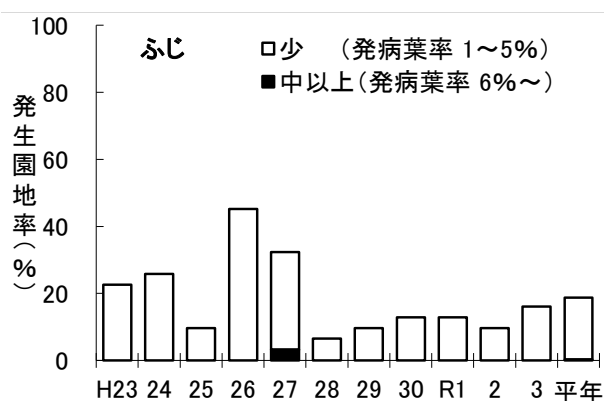


図3 斑点落葉病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉、ふじ)

3 黒星病

(1) 6月後半の巡回調査では、新梢葉の発生園地率は25.8%(平年4.5%)、発生程度中以上の園地率は9.7%(平年0.3%)であり、いずれも平年より高かった(図4)。

(2) 県内で広く発生しており、特に県中部で発生園地率が高かった(図5)。

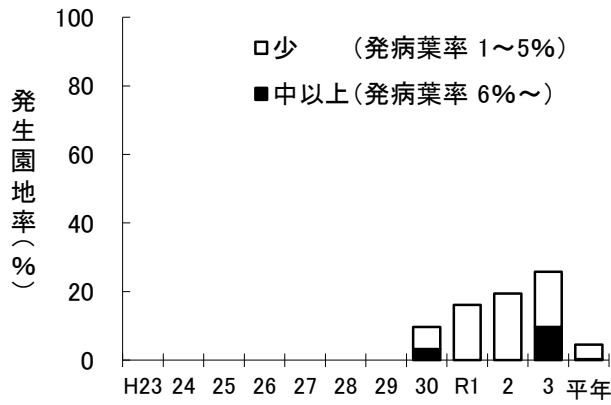


図4 黒星病の年次別発生園地率
(6月後半、新梢葉)

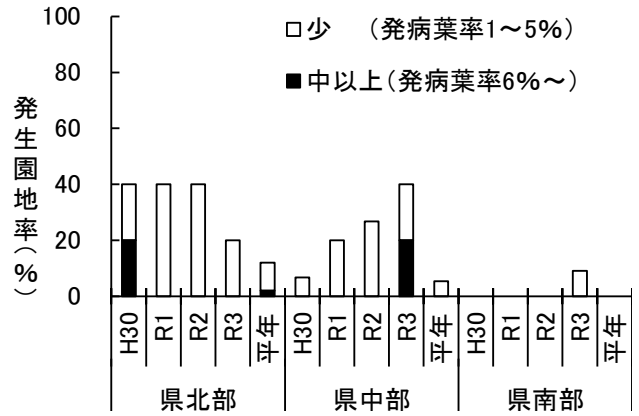


図5 黒星病の地域別発生園地率
(6月後半、新梢葉)

4 赤星病

(1) 6月後半の巡回調査では、発生園地率は3.2% (平年4.2%) で平年並だった (図6)。

5 うどんこ病

(1) 6月後半の巡回調査では、発生園地率は3.2% (平年1.3%) で平年並だった (図7)。

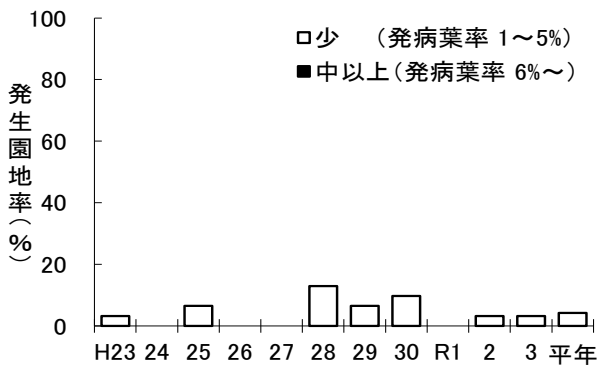


図6 赤星病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉)

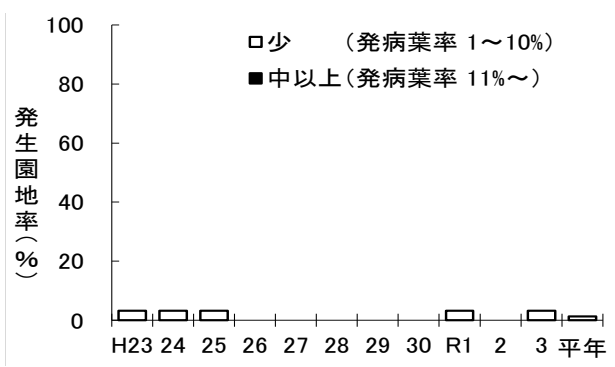


図7 うどんこ病の発生園地率の年次推移
(6月後半、新梢葉)

6 褐斑病

(1) 基準圃場 (北上市成田、ふじ、無防除) における初発は例年よりやや早い6月第2半旬となり、6月第5半旬時点の発病葉率は4.0% (平年0.2%) で平年より高かった (図8)。

(2) 6月後半の巡回調査での発生は確認されなかった (図9)。

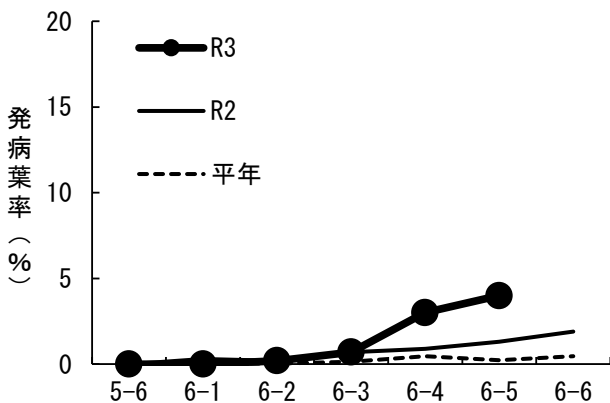


図8 基準圃場における褐斑病の発病葉率の時期別推移 (ふじ、新梢葉、無防除)

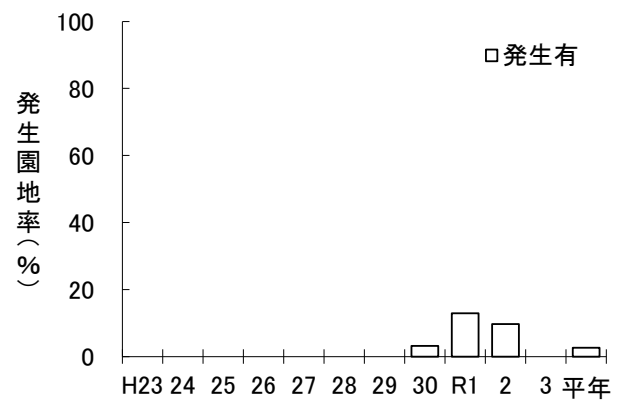


図9 褐斑病の発生園地率の年次推移 (6月後半)

7 キンモンホソガ

- (1) 基準圃場（北上市成田）における第1世代成虫のフェロモントラップへの誘殺は、平年より2半旬早い6月第2半旬に発生ピークが確認された（図10）。
- (2) 6月前半の巡回調査では、発生園地率は12.9%（平年10.6%）で平年並だった（図11）。

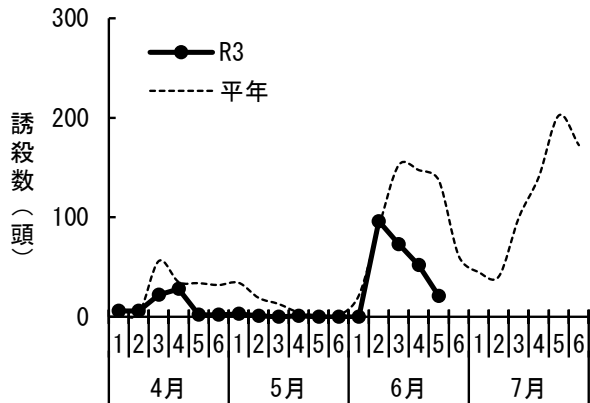


図10 基準圃場におけるキンモンホソガの誘殺状況 (北上市成田、無防除)

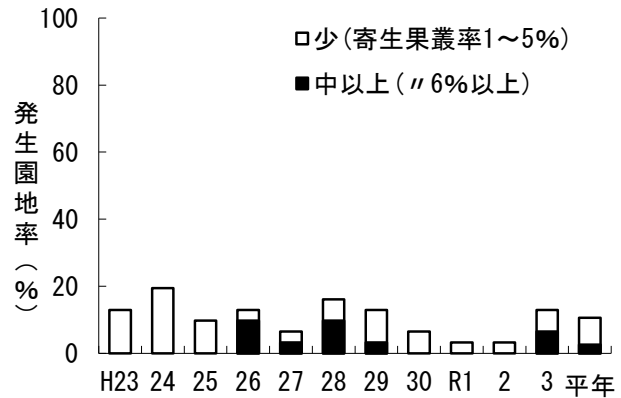


図11 キンモンホソガの発生園地率の年次推移 (6月前半、果叢葉)

8 リンゴハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査では、果叢葉の発生園地率は19.4%（平年21.3%）で、平年並だった（図12）。
- (2) 時期別発生園地率は6月前半、6月後半のいずれも平年並だった（図13）。
- (3) 6月後半の地域別発生状況は、県南部で発生程度中以上の園地があった（図14）。

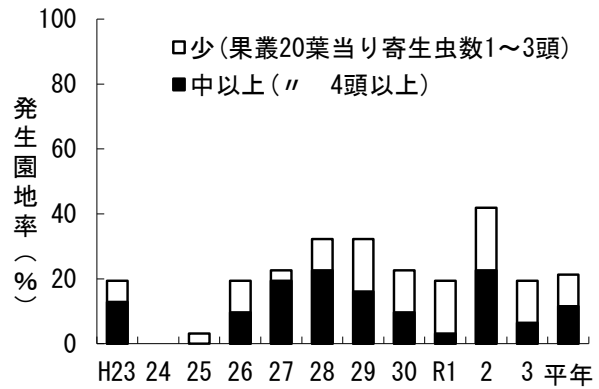


図12 リンゴハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半、果叢葉)

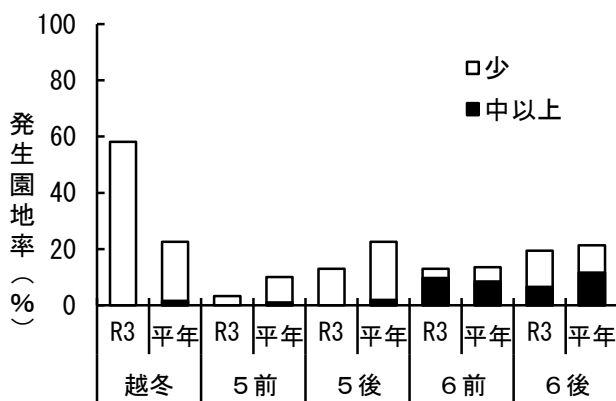


図13 リンゴハダニの時期別発生園地率の推移 (果叢葉)

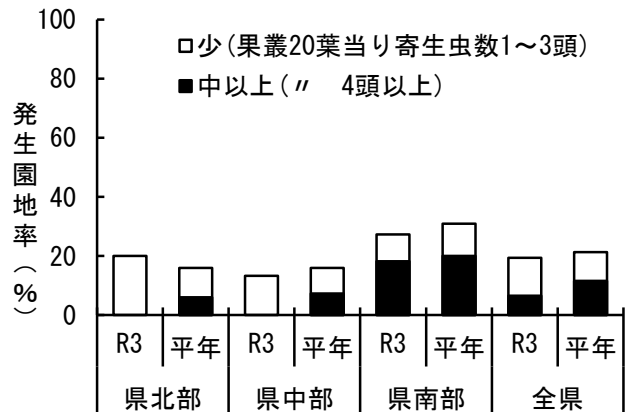


図14 リンゴハダニの地域別発生状況 (6月後半、果叢葉)

9 ナミハダニ

- (1) 6月後半の巡回調査では、果叢葉の発生園地率は12.9%（平年33.5%）で、平年より低かった（図15）。
- (2) 時期別発生園地率は、6月前半以降、平年より低く推移している（図16）。
- (3) 6月後半の地域別発生状況は、県北部及び県中部で発生程度中以上の園地があった（図17）。

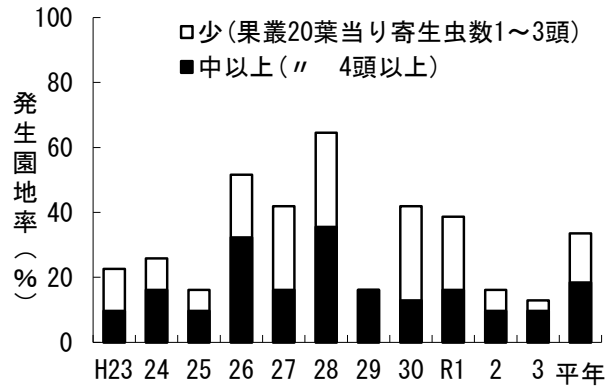


図15 ナミハダニの発生園地率の年次推移 (6月後半、果叢葉)

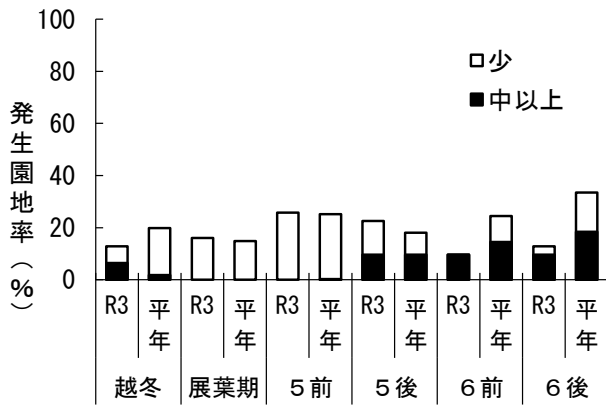


図16 ナミハダニの時期別発生園地率の推移 (果叢葉)

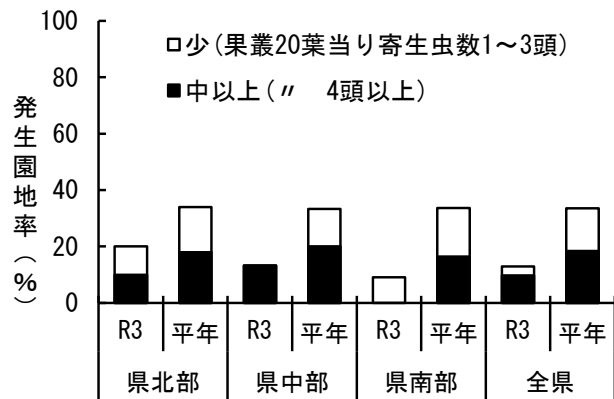


図17 ナミハダニの地域別発生状況 (6月後半、果叢葉)

10 アブラムシ類

- (1) 巡回調査での6月前半の発生園地率は90.3%（平年67.1%）で平年より高く、6月後半は38.7%（平年40.3%）で平年並だった（図18）。
- (2) 発生が見られた種は、ユキヤナギアブラムシ、リンゴミドリアブラムシであった。

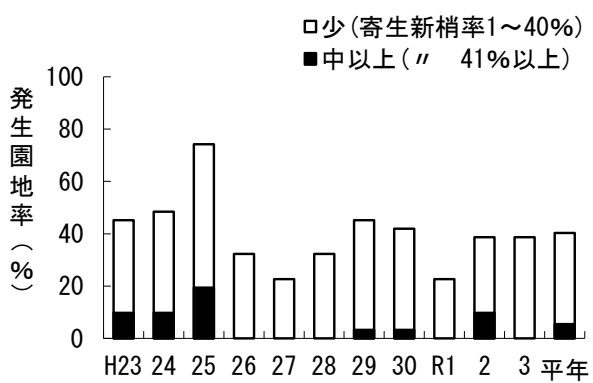
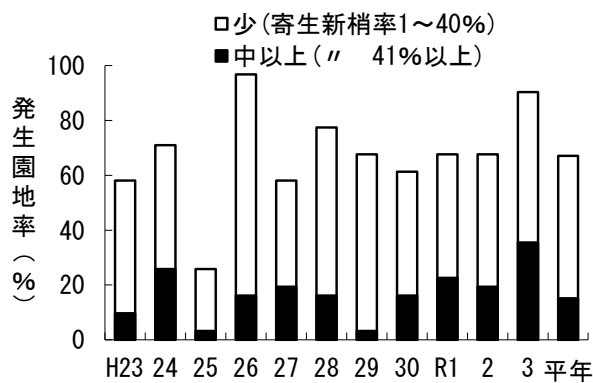


図18 アブラムシ類の発生園地率の年次推移 (左: 6月前半、右: 6月後半)

11 モモチョッキリゾウムシ

- (1) 6月前半の巡回調査では、発生園地率は3.2%（平年6.1%）で平年並だった（図19）。

12 ギンモンハモグリガ

- (1) 6月後半の巡回調査では、被害葉は確認されなかった（図20）。

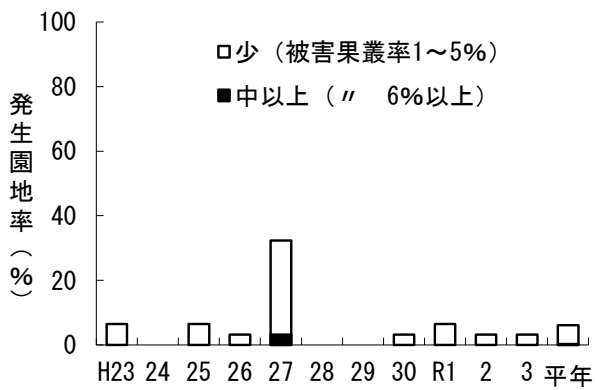


図19 モモチョッキリゾウムシの発生園地率の年次推移（6月前半、被害果）

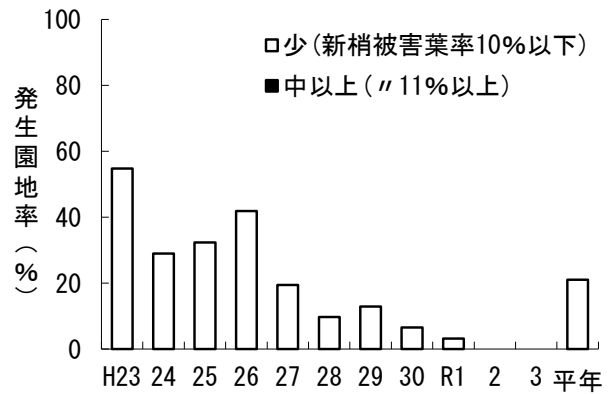


図20 ギンモンハモグリガの発生園地率の年次推移（6月後半、被害葉）

13 果樹カメムシ類

- 巡回調査での6月前半の被害果の発生園地率は16.1%（平年6.5%）、6月後半は38.7%（平年11.3%）でいずれも平年より高く、発生程度中以上の園地も確認された（図21）。
- 集合フェロモントラップへのチャバネアオカメムシの誘殺数は、基準圃場は平年並、現地圃場は平年より少なく推移している（図22、23）。

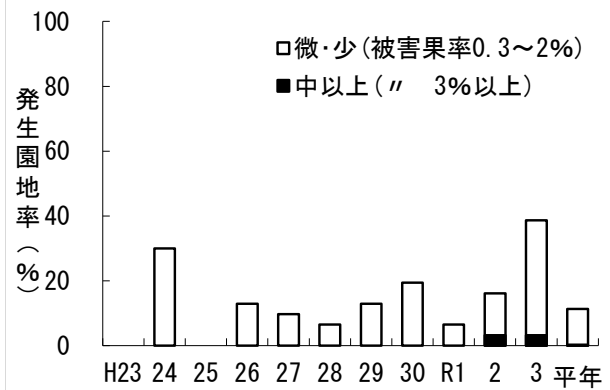
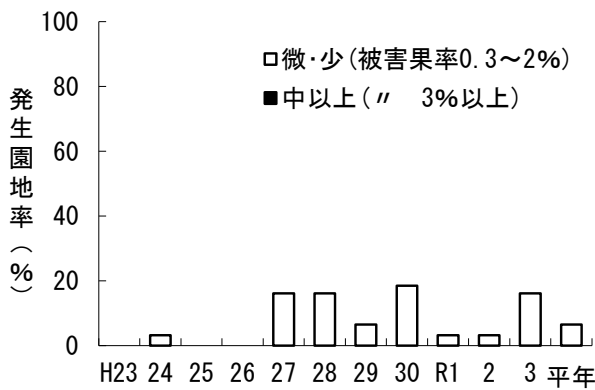


図21 果樹カメムシ類の発生園地率の年次推移（ふじ、被害果、左：6月前半、右：6月後半）

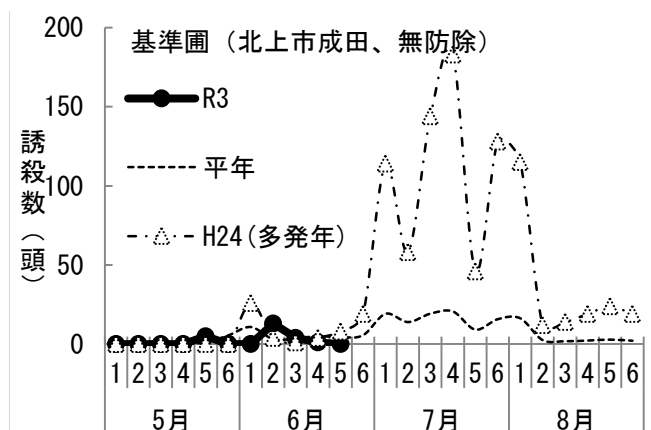
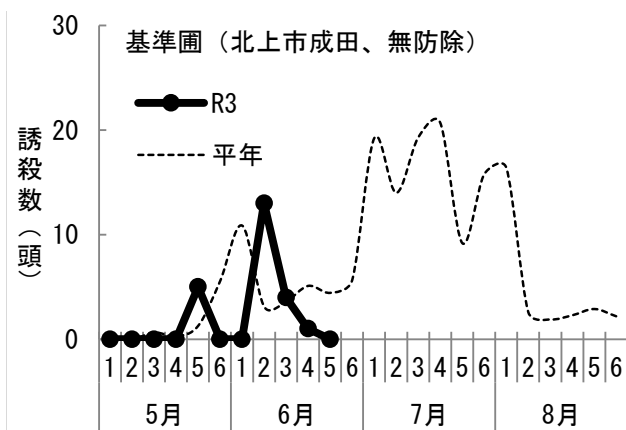


図22 基準圃場におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況（北上市成田、無防除）

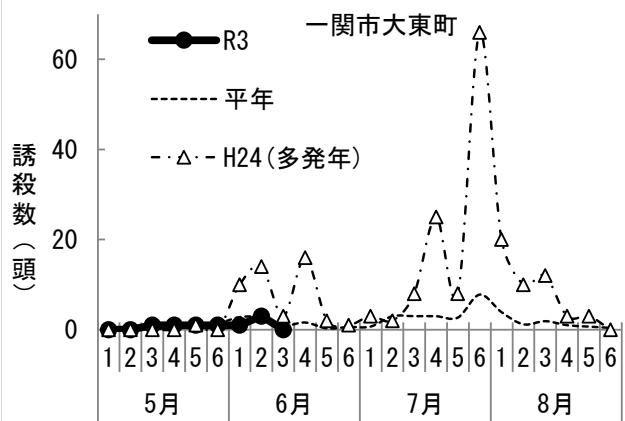
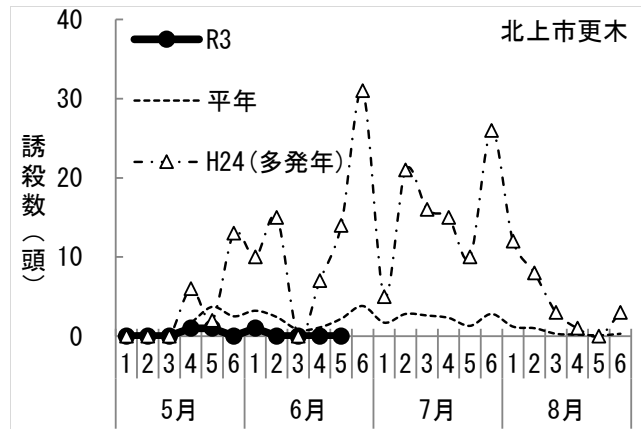
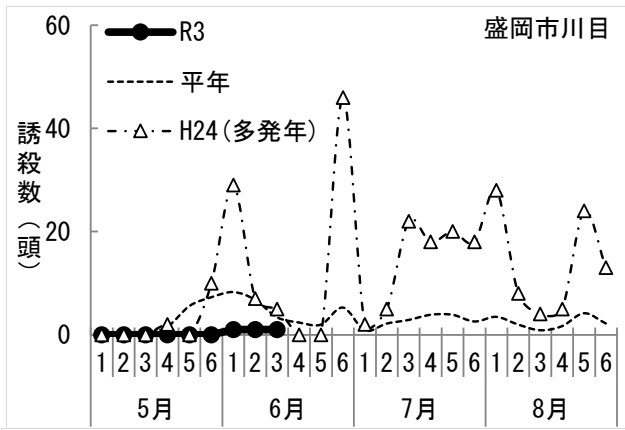


図 23 現地におけるチャバネアオカメムシの集合フェロモントラップでの誘殺状況
 (左上：盛岡市川目、右上：北上市更木、左下：一関市大東町)